

緑 GO GREEN でいこう

地球ひとつで生きる



3/21 長野県飯島町議選で坂本紀子さん5期目の当選。有機・減農薬の学校給食をめざします



4/18 環境エネルギー政策研究所長・飯田哲也さんを講師にお招きし、オンラインセミナー開催



4/14 漢人あきこ運営委員(元小金井市議)が7月東京都議選立候補の記者会見を行った

2030年CO₂削減目標 もっと引き上げを!

4.22緊急気候マーチに全国でアクション **あと4年キャンペーン** 署名提出



4月22日、日本政府は2030年までの削減目標を2013年比46%と表明しました。この数値は、1.5℃目標を達成するには程遠く、さらなる大幅引き上げが必要です(表参照)。

削減目標の引き上げを求める声は、全国に広がりつつあり、「あと4年キャンペーン」は、4月20日に署名168,157筆を政府に提出しました。4月22日には全国60か所以上でスタンディングやマーチなどのアクションが取り组まれました。

今夏のエネルギー基本計画の改訂で、2030年の削減目標や具体的な計画が正式に決められ、11月のCOP26までに削減目標(NDC)が提出される予定です。引き続き署名活動を広げ、削減目標の引き上げと実効性ある削減計画の策定を求めるアクションを広げていきましょう。

政府目標と市民・環境NGOの主張との比較

	日本政府	EU	あと4年署名	FFF*	緑の党GJ
2013年比	46%	44%	54%	62%	70%
1990年比	39%	55%以上	48%	57%	65%

* 政府の2013年比46%削減は、EUの44%削減よりも高いが、1990年以降で比較するとEUよりも大幅に低い。政府が1990年以降の削減を怠ってきたことが分かる。

* EUは1990年比55%以上削減だが、EU議会で緑の党の頑張りもあり、60%削減を決議した。市民・環境NGOは65%削減を主張している。9月に総選挙があるドイツの緑の党は、選挙公約で1990年比70%削減を掲げている。

* FFF: FridaysForFuture。気候変動を止めるための若者のムーブメント。



東京都小平市



静岡県伊豆の国市



香川県高松市



栃木県宇都宮市



千葉県成田市



福岡県福岡市



新潟県新潟市 中山均新潟市議(共同代表)

各地のアクション

超党派の「ストップ気候危機! 自治体議員による気候非常事態・共同宣言」の会が呼びかけたスタンディングなどの行動に、緑の党の会員・サポーターが各地で参加しました。



静岡県静岡市



東京都庁前

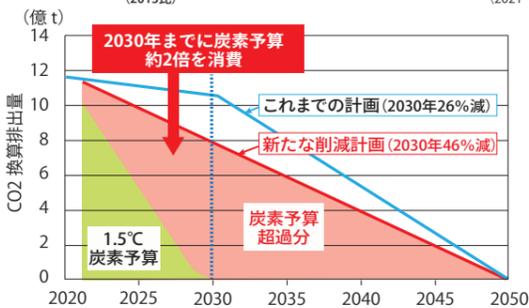


千葉県松戸市



長野県松本市

2030年46%削減の場合の今後の排出量と1.5℃炭素予算



2020年末に日本に残された1.5℃目標炭素予算48億トン(世界の炭素予算3000億トンを日本の人口に単純換算)と、現在の排出量から「2030年46%削減」「2050年ゼロ」までの排出量の関係を示したものの。緑の党が試算。「46%」が現在の排出量から「2050年ゼロ」に向けて単純に直線的に設定された値に過ぎないこと、この計画でさえも「2030年」までに1.5℃炭素予算のほぼ2倍を排出してしまう(!)ことなどがわかる。

「46%」では間に合わない!

日本政府が新たに掲げた「46%」削減目標は、これまでの「26%」より引き上げたとはいえ、以下の点で大きな問題があります。

「60%以上」の削減が必要

1.5℃目標実現のためには「60%」以上の削減が必要であり、緑の党も「70% (以上)」を掲げています。しかし、右図の通り、「1.5℃炭素予算」から見ればこれらでさえ不十分であり、「46%」では早々に予算を使い果たしてしまします。さらに、「気候正義」の観点から考えれば、先進国はより高い目標を掲げる責務を果たさなければなりません。

「新技術」依存と石炭火力からの脱却を!

現在の政府の方針では、新規の石炭火力発電建設も進める一方、二酸化炭素の回収・リサイクル技術や水素・アンモニア混焼など「新技術」に頼ろうとしています。しかし、未確立の技術を夢見る余裕はなく、CO₂の巨大な排出源である石炭火力からの即時撤退、再エネ・省エネの急激かつ大幅な拡大が必要です。

原発ゼロへ

政府は、原発を電源比率20〜30%まで活用しようとしています。原発は気候変動対策に役立たないばかりでなく、事故による回復不可能なリスクや持続不可能性を考えれば、未来はありません。

緑の党グリーンズジャパンは、化石燃料や原発に頼らない持続可能な未来に向けて、経済成長や社会のあり方の根本的な転換こそが必要であることを強く訴えます。それが地球と将来世代への私たちの責務であると確信します。



エコロジカルな知恵



社会的公正・正義



参加民主主義



非暴力・平和



持続可能性



多様性の尊重

世界のみどり

緑の党は世界の100以上の国や地域で活動し、グローバル・グリーンズというネットワークをつくっています。

2/27—ニュージーランド緑の党の取り組みにより、労働党政権は「今年の終わりに来年の2月までに転向療法(性的マイノリティの性的指向や性自認を変更させる試み)を禁止する法律を可決する」と発表。



3/11—東電福島第一原発事故から10年となる今年3月、韓国、ベルギー、ドイツなど各国の緑が様々なたちでアクションを行なった。(写真は韓国)



3/14—ドイツ西部の2つの州議会議員選挙で緑の党が議席を増やした。ドイツでは9月に総選挙が予定されており、ドイツ緑の党共同代表のアナレーナ・ベアボックさんが次期首相になる可能性が高まっている。



3/27—ミャンマーで発生した軍事クーデターに対して、各国緑の党メンバーがオンラインでミャンマー市民への連帯の意思を表明した。



YGJ

GO! ヤンググリーンズ!

緊急気候マーチ0422に自治体議員を含むメンバーが参加し、自治体の庁舎前などでのスタンディングを中心に取り組みました。また、新たに立ち上げた公式ホームページでも、活動報告や新着情報をお知らせしています。ぜひご覧ください!(野中康生)
▶ <https://younggreens.jp>



緑の党 <http://greens.gr.jp>
グリーンズジャパン E-Mail greens@greens.gr.jp

〒165-0026
東京都中野区新井2-7-10サンファスト301
TEL 03-5364-9010 FAX 03-3389-0636

会員・サポーター募集しています

カンパにご協力をお願いします

城南信用金庫 高円寺支店(店番号036) 普通預金
口座番号:340392 名称:緑の党グリーンズジャパン

郵便口座 ゆうちょ銀行
口座番号:00100-9-262967 名称:緑の党
他金融機関からのお振り込みの場合 当座預金
店名:〇一九(ゼロイチキュー) 口座番号:262967

環境再生型農業

有機農業、環境保全型農業へ

ネオニコチノイド系農薬やグリホサートのように、除草剤などの化学農薬が生態系や健康に悪影響を及ぼすことが指摘されています。また、石油合成の化学農薬・肥料の使用も温室効果ガス排出を加速させます。これらに頼らず、自然環境の力を生かし生物多様性を改善させる農業を推進することが必要です。

動物福祉に配慮した畜産へ

温室効果ガスは家畜飼料の製造・加工過程や家畜から多く排出されています。また大規模畜産業のために、広大な熱帯雨林が失われています。日本では効率優先の工業型畜産が、

鳥インフルエンザや豚熱など別の問題も引き起こしています。環境と家畜福祉の視点から、健康で安全な畜産物を生産する「有機畜産」を推進することが求められます。

多様な農業へ

農業の担い手不足、休耕地の拡大、農村の過疎化が大きな課題となっています。新型コロナウィルスの影響により、都心から地方への移住が進んでいる状況を活用し、新規就農者を増やすための取り組みが求められます。そのためには、農業の法人化だけでなく、中山間地農業や小規模農業、国連も提唱する家族農業、半農半Xなど、各地域の気候や風土、各

農業者に合わせた多様な農業への支援が必要です。

現在、農水省が策定中の「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに有機農地25%、化学肥料30%低減、化学農薬50%低減という目標が掲げられています。これを実現させるためには、36号でも一部取り上げたように、学校給食や高齢者施設・病院などへの有機農畜産物の公共調達による販路の確保、地域に根ざした食育の推進などが必要不可欠です。このことは食糧自給率の向上にも寄与し、食料安全保障の観点からも非常に重要です。

会津素子(運営委員・千葉県成田市議)



運営委員会より 3～5月に発表した主な声明・談話

- 3/9 国際女性デーにあたって 危機の中で困難に直面している女性たちを守るための早急な対策を -
- 3/30 ミャンマー(ビルマ)国軍による虐殺をとめるため、日本政府は国軍を利する資金の調査と停止を
- 4/10 二回目の現金一律給付を求めます
- 4/18 福島第一原発汚染水放出決定に強く抗議します
- 4/23 日本政府がNDC「2013年比46%削減」を表明 - さらに野心的で実効性ある削減目標と計画、持続可能な未来を
- 5/2 止めよう老朽化原発、進めよう再生可能エネルギー
- 5/3 日本国憲法施行から74年 - 社会と憲法の新たな危機の中で、憲法理念の再確立を!

● 声明及び談話の内容については、ホームページをご覧ください。

持続可能な農業に取り組む! 緑の自治体議員より

兵庫

尼崎市内で3つのコミュニティ農園に関わらせていただきました。都市農地の可能性を感じ、都市農業について話し合ったり、一般質問等で問うてきました。つながりの中で出会った方々と一緒に畑を創り、食べものを作るプロセスでコミュニティが強化される。こんな時代だからこそ都市における農地はコモンであるべきだと実感しています。



尼崎の伝統野菜「田能の里いも」

尼崎市議
山崎けんいち

静岡

山の高橋農園は伊豆半島の山中にポツンと残る天空の農園。80年前から無農薬有機栽培を続けている。私は自然の中で4人の子どもたちと共に育てられた。緑の思想、持続可能な社会…。ここの暮らしではあたりまえ。新鮮な精気を吸い、大声で歌い土を耕す。古くて新しい豊かな生き方を提唱していく。



100%電気で走る三人乗りトゥクトック

伊豆の国市議
高橋たかこ

自治体&国会議員選挙

3/21	東京都小金井市議選	坂井えつ子	現	会	推薦	当選
	長野県飯島町議選	坂本紀子	現	会	推薦	当選
3/28	静岡県静岡市議選	まつや清	現	会	公認	当選
4/11	広島県庄原市議会議員選	松本みのり	新	サ	推薦	当選
4/18	静岡県伊豆の国市議選	高橋たかこ	現	会	推薦	当選
	大阪府能勢町議選	なんばきみこ	新	サ	推薦	当選
4/25	参議院補欠選挙(長野県区)	羽田次郎	新	非	推薦	当選
	参議院再選挙(広島県区)	宮口はるこ	新	非	推薦	当選
6/6	兵庫県尼崎市議選	山崎けんいち	現	会	公認	
7/4	東京都議選	関口健太郎	新	サ	推薦	
		池尻成二	新	非	推薦	
		漢人あきこ	新	会	推薦	
		小松久子	新	サ	推薦	
		関口江利子	新	サ	推薦	
		岩永やす代	新	非	推薦	

新:新人 現:現職 / サ:サポーター 会:会員 非:非会員

気候危機に立ち向かうエネルギー基本計画を

グリーンリカバリーにYES!
グレーリカバリーにNO!

オンライン
連続セミナー
第3期

参加費無料 事前申込
ZOOM ウェビナー

第3回 6/24(木) 19:00-20:30

EUグリーンリカバリーとドイツのチャレンジ

講師:ジャミラ・シェーファーさん

ベルリンで社会学、哲学を学び、2011年からドイツヤンググリーンズに参加。2018年からドイツ緑の党の連邦委員会メンバー(ヨーロッパ/国際政治担当)。

